

伊藤仁斎 イトウ, ジンサイ 1627 ~ 1705

江戸初期の儒学者。古学派。朱子などの後世の注釈を排して、直接孔子・孟子の原典にあたり本来の意義(古義)を明らかにする古義学を提唱し、荻生徂徠の古文辞学の成立等、後続の思想家達に影響を与えた。

仁斎は、京都堀川に生まれた。名は維楨(これえだ)、字は源佐(げんすけ)、仁斎は号。はじめ朱子学を修めたが次第に懐疑を抱くようになり、やがて朱子学から脱却して独自の古義学を形成していくようになった。1662年、私塾古義堂を開くと門弟を多く教育し、また同志会という民主的な共同研究会を作った。彼は仕官の誘いも断り、終生、一町民学者のままであった。著作は、没するまで捕定作業を行ったため、刊行はいずれも長男東涯によって死後に為された。

Great Books 53 童子問(どうじもん)

上中下全3巻。189章から成り、師と弟子の問答の形をとりながら、仁斎の古学思想を余すことなく述べた代表的著作。仁斎没後の1707年に刊行された。

『童子問』において、仁斎は、『論語』を「最上至極宇宙第一の書」、『孟子』をその「義疏」(解釈する基準を与えるもの)とし、真理のすべてはこの2書にあり、後世の注釈書によらずこの原典本文の精読により孔子・孟子の主旨を明らかにすべきであるという、古義学の本領をまず説く。そして、『論語』の根本思想は、「知り易く行い易い」堯舜の教えであって、それは平易・卑近で日常の実践の中に求められる「人倫日用の道」であり、朱子学などの「高遠」な議論は邪道であるとした。

また、『論語』の第一義である「仁」については愛であると考え、関連するさまざまな道徳の各論を述べ、学問論においては事物の存在の根拠に「理」を据える朱子学を批判した。

荻生徂徠 オギユウ, ソライ 1666 ~ 1728

江戸時代、元禄享保期の儒学者。伊藤仁斎、山鹿素行らとともに古学派と呼ばれる。古文辞学(こぶんじがく)を確立。古文辞学は、古来の文章を今の言葉や文章(今言今文)で理解するのではなく、書かれた当時の古い言葉や文章そのまま理解しようとする学問である。

館林藩主綱吉(後の5代将軍)の侍医の次男として出生。父の流罪により14歳頃から27歳頃まで常総(千葉県)で過ごし、この間、儒学を独学で学んだ。この時、文献の入手がままならない環境のなかで、数少ない書物を丹念に熟読した経験が、後の古文辞学へと繋がったと言われる。1662年頃、江戸に戻り、芝増上寺付近に私塾を開き、儒者として活動を始めた。柳沢吉保への仕官を経て、1709年、日本橋茅場町に「護園」と称する私塾を開き、太宰春台(経学)、服部南郭(詩文の学)などの門人を輩出した。

Great Books 54 弁道(べんどう)

『弁名』とならび二弁と称される徂徠の代表的著作。1717年に成稿。徂徠の没後1737年に門人の校訂を経て刊行された。『弁名』の総論にあたり、「道」についての論述25則からなる。『弁道』の中で徂徠は「先王の道は、先王の造る所なり。天地自然の道に非ざるなり。」と述べている。中国古代の聖人(堯、舜、禹、湯王、文王、武王)が、治国平天下の理想を実現するために、経世済民の術として作った具体的な行為のしかたが「道」である、と述べているのである。この徂徠の説が独創的であるのは、「道」は天地自然に存在するものではないと考え、あくまでも聖人による作為のしかた、としたことである。これは、「理(物事が当然そのようにあらねばならない原理)」は万物に先立って存在し、それが人間社会に体されて「道」になる、とする朱子学とも、「道」を「理」と無関係な「本来自由の物(もともとのずからあるもの)」とする伊藤仁斎の説とも立場を異にしている。「道」を治国平天下実現のための行為、つまり、制度・政策として位置付けたことは、徂徠が、儒学を道徳論から切り離し、政治論として捉えていたことを示している。

◆ *Great Books* 文献案内

(伊藤仁斎)

- 📖 日本人の論語(P H P 新書) 上・下 / 谷沢永一(著)
P H P 研究所 2 0 0 2 年刊 <121.56LL / 14 / 1~2> 資料番号 21495940 , 21502661
- 📖 童子問(岩波文庫) / 清水茂(校注)
岩波書店 1 9 7 0 年刊 2 8 8 p <121 / 1> 資料番号 12248878
- 📖 日本古典文学大系 97 近世思想化文集 / 家永三郎(ほか校注)
岩波書店 1 9 7 6 年刊 7 2 4 p <918 / 9 / 97> 資料番号 12039046
- 📖 大日本思想全集 第4巻 伊藤仁斎集 伊藤東涯集 山崎闇齋集 / 大日本思想全集刊行会(編)
大日本思想全集刊行会 1 9 3 4 年刊 4 6 1 p <121 / 5 / 4> 資料番号 10192896

(荻生徂徠)

- 📖 日本の名著 16 荻生徂徠 / 尾藤正英(編)
中央公論社 1 9 7 4 年刊 5 3 7 p <081.6 / 34 / 16> 資料番号 12785135
- 📖 荻生徂徠全集 第1巻 / 荻生徂徠(著)
河出書房新社 1 9 7 3 年刊 6 0 7 p <121.6 / 8 / 1> 資料番号 10198364
- 📖 日本の思想 12 荻生徂徠集 / 金谷治(編)
筑摩書房 1 9 7 0 年刊 3 8 5 p <121 / 45 / 12> 資料番号 10193845
- 📖 日本哲学思想全書 第14巻 儒教篇・道德論一般篇 / 三枝博音(編)
平凡社 1 9 5 7 年刊 3 5 4 p <081.6 / 10 / 14> 資料番号 12867263
- 📖 大日本思想全集 第7巻 荻生徂徠集・太宰春台集 / 大日本思想全集刊行会(編)
大日本思想全集刊行会 1 9 3 3 年刊 4 5 3 p <121 / 5 / 7> 資料番号 10192920
- 📖 日本儒林叢書 第4冊 / 関儀一郎(編)
東洋図書刊行会 1 9 2 9 年刊 1 0 2 6 p <081.5 / 14 / 4> 資料番号 10141687

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

(伊藤仁斎)

- 📖 過去の声 / 酒井直樹(著)
以文社 2 0 0 2 年刊 5 7 0 p <121.5LL / 121> 資料番号 21493408
- 📖 京都町衆伊藤仁斎の思想形成 / 三宅正彦(著)
思文閣出版 1 9 8 7 年刊 3 7 0 p <121.6U / 20> 資料番号 12301172
- 📖 近世日本社会と宋学 / 渡辺浩(著)
東京大学出版会 1 9 8 5 年刊 2 5 2 , 9 p <121.3T / 16> 資料番号 12301024
- 📖 叢書・日本の思想家 10 伊藤仁斎 / 伊東倫厚(著)
明德出版社 1 9 8 3 年刊 2 5 5 p <121N / 122 / 10> 資料番号 12300497
- 📖 伊藤仁斎 / 子安宣邦(著)
東京大学出版会 1 9 8 2 年刊 2 4 4 p <121.6N / 16> 資料番号 12301149
- 📖 伊藤仁斎の学問と教育 / 加藤仁平(著)
第一書房 1 9 7 9 年刊 9 0 8 , 1 0 p <121.6L / 13> 資料番号 10198612
- 📖 日本の名著 13 伊藤仁斎 / 貝塚茂樹(編)
中央公論社 1 9 7 2 年刊 5 2 0 p <081.6 / 34 / 13> 資料番号 12785093
- 📖 日本の思想 11 伊藤仁斎集 / 木村英一(編)
筑摩書房 1 9 7 0 年刊 3 8 8 p <121 / 45 / 11> 資料番号 10193837

- 📖 伊藤仁斎 / 石田一良(著)
吉川弘文館 1960年刊 217p <121.6/6> 資料番号 10198349
- 📖 日本経済叢書 卷33 / 滝本誠一(ほか編)
日本経済叢書刊行会 1927年刊 572p <332.1/2/33> 常置 資料番号 10819431

(荻生徂徠)

- 📖 荻生徂徠(中公新書) / 野口武彦(著)
中央公論社 1993年刊 317p <121.56CC/5> 資料番号 20633228
- 📖 徂徠とその門人の研究 / 若水俊(著)
三一書房 1993年刊 188p <121.56BB/4> 資料番号 20566451
- 📖 徂徠学の史的的研究 / 今中寛司(著)
思文閣出版 1992年刊 397, 9p <121.56BB/3> 資料番号 20536934
- 📖 徂徠学の世界 / 田原嗣郎(著)
東京大学出版会 1991年刊 272p <121.56Z/2> 資料番号 20385613
- 📖 荻生徂徠年譜考 / 平石直昭(著)
平凡社 1984年刊 267, 17p <121.6/17> 資料番号 12301156
- 📖 吉川幸次郎全集 23 / 吉川幸次郎(著)
筑摩書房 1976年刊 710p <081.8/32/23> 資料番号 10156636
- 📖 人物日本の歴史 12 元禄の時代 / 野口武彦(ほか著)
小学館 1975年刊 265p <210.1/94/12> 資料番号 10363331
- 📖 日本思想大系 36 荻生徂徠 / 吉川幸次郎(ほか校注)
岩波書店 1973年刊 829p <081.6/28/36> 資料番号 10150159
- 📖 徂徠学の基礎的研究 / 今中寛司(ほか著)
吉川弘文館 1966年刊 8, 551, 14p <121.6/7> 資料番号 10198356